

令和3年度第2回京都市動物愛護推進会議 摘録

1 開催日時

令和4年3月9日（水） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

職員会館かもがわ 2階大会議室

3 出席者（敬称略）

<座長>

森 尚志 （公益社団法人京都市獣医師会 会長）

<委員>

上村 享 （近畿ケネル協同組合 理事）

大國 智子 （市民公募委員）

岡村 公子 （京都市地域女性連合会 常任理事）

鍵村 佳江 （京都市教育委員会総合教育センター指導室 指導主事）

古橋 博昭 （公益財団法人関西盲導犬協会 常務理事）

升光 泰雄 （公益社団法人京都市私立幼稚園協会 監事）

松岡 幸子 （認定NPO法人アンビシャス 理事長）

村田 裕史 （公益社団法人京都市獣医師会 副会長）

山崎 陽子 （京都市保健協議会連合会 副会長）

和田 晴太郎（京都市動物園 副園長）

<事務局>

安部 康則（医療衛生担当局長）

志摩 裕丈（医療衛生推進室長）

南 秀明（医療衛生推進室医療衛生センター長）

伊東 大輔（京都市動物愛護センター所長）

西原 和美（医療衛生企画課生活衛生担当課長）

河野 誠（医療衛生企画課動物愛護係長）

4 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 内容

報告事項

「動物愛護事業の認知度等」・「高齢者のペットの飼養実態」に関するアンケート調査結果
について

協議事項

京都市動物愛護推進会議ワーキンググループの設置について

第二期京都市動物愛護行動計画に基づく取組予定（令和4年度）について

(5) 閉会

5 会議録

- 【座長】 報告事項「動物愛護事業の認知度等」・「高齢者のペットの飼養実態」に関するアンケート調査結果」について、事務局から説明をお願いします。
- 【事務局】 資料1により説明。
- 【座長】 ただいまの説明について、御意見、御質問はありますか。
- 【委員】 高齢者とは何歳からを言うのですか。
- 【事務局】 今回のアンケートでは65歳以上を高齢者とさせていただきます。
- 【委員】 高齢者がペットを飼い始めることを「よい(あまりよい)と思わない。」という方が全体の53%となっていますが、これは多いと思われませんか。
- 【事務局】 数字の受け止め方はペットを飼われている方、そうでない方等でひとそれぞれかと思えます。ただ、ペットを飼っておられる方は責任をもってペットを飼わなくてはいけないという思いを持たれている方が多くおられるという印象を受けています。一方で、自身に何かあったときの対策を十分にとれていないという方も多くおられる点は課題と感じています。これまで行ってきた終生飼養の啓発とあわせて、ペットを飼うに当たっての有用なサポートやサービスを周知していくことが必要だと考えています。
- 【座長】 続いて、協議事項「京都市動物愛護推進会議ワーキンググループの設置について」説明をお願いします。
- 【事務局】 資料2により説明。
- 【座長】 ただいまの説明について、御意見、御質問はありますか。
- 【委員】 ワーキンググループのメンバーは京都市動物愛護推進会議の委員から選ばれるのですか。
- 【事務局】 基本的には推進会議の委員を考えていますが、例えば多頭飼育・ひとり暮らし高齢者対策では社会福祉施策との連携が必要となるので、その分野の有識者の方に参加いただきたいと考えています。
- 【委員】 京都市動物愛護推進会議や動物愛護センター運営委員会ではメンバーが重複しているので、新たにワーキンググループを作るのであれば、メンバーの構成に変化を持たせた方が、新しい意見等が得られるのではないのでしょうか。
- 【事務局】 ワーキンググループは、テーマに沿った方をメンバーとしてお集まりいただこうと考えており、委員の方全員に参加していただくというようなことは考えておりません。いただいた意見を踏まえて、メンバーの構成について検討させていただきます。
- 【委員】 昨今はオンライン会議が主流となってきているので、この会議も含めて、オンライン化を検討いただきたいです。
- 【事務局】 検討させていただきます。
- 【委員】 卒業された動物愛護センターのボランティアは相当な数がおられると思います。そのような方もメンバーとして検討いただきたいです。
- 【事務局】 卒業ボランティアにはこれまでからも小学校の出前授業で協力いただいていた経過もありますので、動物愛護教育について検討する際に力を貸していただきたいと考えています。
- 【委員】 私自身、推進会議に参加してすぐの頃は分からないことばかりでしたが、分からないなりに、話を聞いて一緒に考えることはすごく意義深いことだと感じています。ワーキンググループを設けて多様な意見を取り入れることは賛成です。
- 【委員】 ペットの話は子どもから高齢者まで多岐にわたると思います。先日、犬を飼うことが高齢者の健康の増進に効果があるという調査結果を記事で見ました。しかし、先ほ

どのアンケート結果ではまだまだ動物愛護に関する認知度が低いと感じました。ワーキンググループは様々な課題を吸い上げることが主な役目だと思いますので、ペットを飼っている、飼っていないに関係なく、様々な人に動物愛護の取組を知ってもらい、一緒に考えていけるような集まりにさせていただきたいです。

【事務局】 御指摘のとおり、周知や情報発信については様々な課題があると思っています。幅広い意見が取り入れられるようメンバーの構成を検討させていただきます。

【委員】 私は動物愛護のことをこの会議に参加しながらいろいろと学ばせていただきました。学んだことを地元で発信していく中で、条件付だが、地元の避難所でペットの受入が出来るようになりました。ワーキンググループでも防災に関する意見をいただいたらどうかと思います。

【委員】 10年前に比べると、ペットの数は減っていて、今後も減っていくことになると思われます。高齢者が年齢を理由に飼うことを躊躇されるケースはよくありますが、自分だけで面倒をみようとする負担が大きくなるため、何かしらのサポートを示すことで、高齢者の方が安心してペットを飼うことを選択出来るような仕組みを探っていきたいと思います。

【座長】 では、ここで室内換気のため5分間小休止をとらせていただきます。

【座長】 会議を再開いたします。協議事項「第二期京都市動物愛護行動計画に基づく取組予定（令和4年度）について」説明をお願いします。

【事務局】 資料3により説明。

【座長】 ただいまの説明について、御意見、御質問はありますか。

【委員】 マイクロチップの装着義務化について、京都市ではマイクロチップの助成制度があると思います。今後はマイクロチップの装着が飼い主の努力義務となるので、助成制度を無くして、その費用を啓発に回した方が良いのではないのでしょうか。

【委員】 今年度の助成件数はすでに上限である1,000頭に達しています。まだまだ必要とされている制度だと感じます。

【事務局】 助成制度については、来年度も実施したいと考えていますが、今後、助成制度のあり方は検討が必要だと考えています。例えば、犬はペットショップから飼うことがほとんどなので、最初からマイクロチップが入っていますが、猫は野良猫を飼い始めることも多く、マイクロチップが装着されていないケースが多いと思われます。助成の対象をどうするのかなど、今後、議論が必要であると感じていますので、意見をいただきたいと思っています。

【委員】 助成制度の期限を設けてはどうでしょうか。いつまでに入れるようにしましょうと言うと装着の促進に効果があるのではないのでしょうか。また、チップの装着を否定的に思われる方は一定数おられますので、獣医師の先生方の協力を得ながら、そうした考えを払拭していくことはできないのでしょうか。

【事務局】 啓発に力を入れるようにとの御意見かと思いますが。助成制度が啓発にどれほど効果があるのかといったことは検証する必要があるかと思いますが、法改正によるマイクロチップの装着義務化とはどのようなことなのか、京都市の助成制度がどのようなものなのか、というところから周知啓発を徹底していきたいと思っています。

【委員】 マイクロチップは脱落等の問題が出ることもあるが、東北の震災等では非常に有用だったと聞いています。今後もしばらく、助成制度は続くものと思ってよろしいのでしょうか。

【事務局】 そのつもりです。令和4年6月1日以降、様々な課題が出てくることが予想されますので、それらを踏まえて、制度のあり方を考えたいと思います。

【委員】 京都市と災害協定を結ばれている団体にはなにか条件があるのですか。

- 【事務局】 様々な団体と多く協定を結びたいと考えておりまして、お声かけいただいた団体と締結させていただいている状況です。
- 【委員】 関西盲導犬協会とも締結していただくことはできるのでしょうか。何ができるか分かりませんが、災害時、できることを協力していきたいと思っています。
- 【事務局】 ありがとうございます。さっそく事務手続きをはじめさせていただきます。
- 【委員】 先ほど、高齢者がペットを飼うことによる健康への効果について意見が出ていましたが、京都市としても、高齢者の方にペットを飼うに当たってのサポートを紹介する以外にも、ペットを飼うことによる有用性を伝えてみてはどうでしょうか。
- 【事務局】 おっしゃっていただいたとおりかと思えます。動物愛護の視点だけでなく、様々な視点から仕組みづくりを考えていければなと思えます。
- 【委員】 高齢者がペットを飼うにあたって、子犬を飼うだけでなく、高齢犬を選ぶという選択肢もあることを示してあげるのがいいのではないのでしょうか。
- 【事務局】 ペット飼うに当たっての情報発信を強化していきたいと思えます。
- 【委員】 動物愛護教育を年齢層の高い子どもにもアプローチしていくとのことですが、それ以外にも支援の必要な子どもたちに対しても動物愛護を通じて何かできないか考えてみてはどうでしょうか。
- 【事務局】 教育の現場では動物を通じて出来ることが多くあると感じています。いただいた御意見を参考に、出来ることを積極的に検討していきたいと思えます。
- 【委員】 アンケートの結果でも出ていますが、高齢の方がペットを飼うことを否定的にみられる方はまだまだ多くおられると思えます。そういった現実を見据えたうえで、情報発信をしていただきたいと思えます。
- 【事務局】 この会議ではどうしてもペットに肯定的な意見が多くなりますが、アンケートの結果は一般の市民の方がどう思われているのかがよく表れていると考えています。いろいろな意見があるということを踏まえたうえで、施策に反映させていきたいと思えます。
- 【委員】 動物愛護推進員の年齢層が非常に高いと感じています。リモート等を活用すれば、昼間忙しい若い方にも協力いただけるような体制を作れるのではないのでしょうか。
- 【事務局】 リモート等の活用は積極的に進めていきたいと考えています。動物愛護センターのボランティアスタッフ等には若い年齢層の方もおられますので、そういった方の意見を集められるような体制づくりを検討させていただきます。
- 【委員】 動物愛護施策と動物園では、動物がいかに健康で楽しく過ごせるのか考えるなど、共通する部分は多いと感じています。お互いに更なる協力関係を築いていけるのではないのでしょうか。
- 【事務局】 ありがとうございます。ぜひ連携を進めさせていただきたいです。
- 【座長】 それでは時間となりましたので、質疑を終了させていただきます。事務局には本日の意見を施策に反映していただければと思えます。進行を事務局へお返しします。
- 【司会】 議事進行ありがとうございました。
これもちまして本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。